

■停止しているからこそ「安全に作業」

もちろん、換気扇の効率は単純に安全ガードを装着していない方が優れていますが、鳥やコウモリを吸い込んで換気扇の羽を傷めることもありますし、低い場所に設置した換気扇で人間が怪我をすることもあります。

怪我など無いに越したことはありません。

「注意1秒、怪我1生」と言いますが、安全対策はいくらしても充分と言うことはありません。お気を付け下さい。

■冬は採光を意識した「ビニール施工」

夏に風の通り道だった窓もスレートでは無く、ビニールを張ることで用意に防寒対策が出来ます。暗かった箇所はビニールハウスの部品を利用することで、冬場の採光と夏場の換気を両立することができます。

この様に多くの費用を投じなくとも冬場の防風と夏場の換気を両立できます。工夫次第で多くの発想と方法が生まれます。



■春からでは遅い「暑熱対策」

春になって桜が咲くと、アツという間に本格的な暑熱対策の季節がやってきます。「車に乗って窓を閉めたら、クーラー入れたいな」と思った時には既に遅く、乳牛には大きな暑熱負担がかかり始めています。

しかし、「田圃もあるし、飼料畑も忙しい」、「堆肥も持って行かなくてはいけない」と、目先の仕事に優先されるのが現実です。随分先の事と思われるかも知れませんが、時間が割ける冬だからこそ、安全にゆとりをもって暑熱対策を始めることが出来ます。

例年、5月初めのゴールデンウィークの日中には、気温は一気に上昇し、30度を超える日も珍しくはありません。その頃には充分な暑熱対策が出来ていることを願ってやみません。

酪農経営に貢献してくれる乳牛達のためにも……。

温度湿度指数表

相対湿度 %

全酪連

C°	相対湿度 %																					
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	
22.0																						
23.5																						
24.0																						
24.5																						
25.0																						
25.5																						
26.0																						
26.5																						
27.0																						
28.0																						
28.5																						
29.0																						
29.5																						
30.0																						
30.5																						
31.0																						
31.5																						
32.0																						
33.0																						
33.5																						
34.0																						
34.5																						
35.0																						
35.5																						
36.0																						
36.5																						
37.0																						
38.0																						
38.5																						
39.0																						
39.5																						
40.0																						
40.5																						
41.0																						
41.5																						
42.0																						
43.0																						
43.5																						
44.0																						
44.5																						
45.0																						
45.5																						
46.0																						
46.5																						
47.0																						
48.0																						
48.5																						
49.0																						
49.5																						
50.0																						
50.5																						
51.0																						
51.5																						
52.0																						
53.0																						
53.5																						
54.0																						
54.5																						
55.0																						
55.5																						
56.0																						

<72
快適

72-79
やや暑い

80-89
暑い!

90-98
厳しい暑さ

>98
危険!

この表は、乳牛の健康と生産性を高めるために、乳牛の体温と湿度を考慮して作成されています。乳牛の健康と生産性を高めるために、乳牛の体温と湿度を考慮して作成されています。

事件は現場で起きています



「冬だからこそ、暑熱対策!!」その理由は・・・

広酪事業推進課 係長 大島達夫

暑熱対策は「夏」に行うものであるという季節的イメージをお持ちでは無いでしょうか。私の暑熱対策はもう既に始まっています。とても逆なことを言っているように思われるかもしれませんが、畑や田んぼの仕事があまり無い今の時期は、暑熱対策の準備をする絶好の季節です。なぜならば、夏場に毎日フル稼働している換気扇を止めて、清掃や向きを変えることは困難であります。冬なら簡単に行うことができます。従って、「冬」はゆっくりと時間の余裕をもって、暑熱対策を行うための絶好の時期と言えます。

■停止しているからこそ「換気扇を掃除」

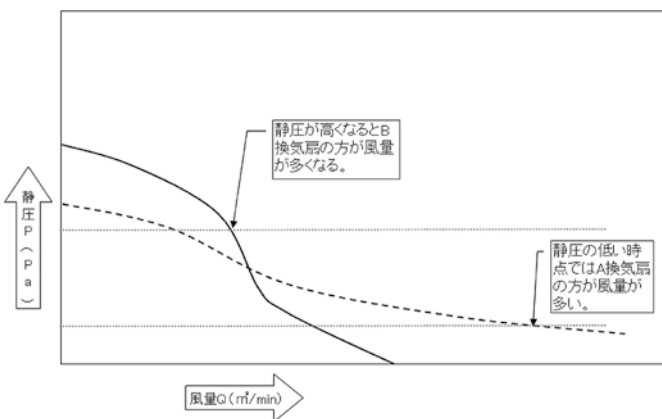
追い風で水面を進んでいる帆船は、空気から進行方向の抗力を受けて進んでいます。また、レーシングカー等は、飛行機の翼と逆向きに取り付けられたスポイラーによる逆揚力によって地面に対するダウンフォースを発生させ、高速でもタイヤを地面に接地させて走ることが出来ます。

言うまでもなく、風の進行方向に物体があると、大きな抵抗が生じ、風の力が減少してしまいます。こまめな掃除が行われている牛舎でも換気扇の周りはどうしてもホコリが多く付いてしまいます。もちろん、前方だけではなく空気を取り入れ側の安全ガードにホコリが沢山付いていけば、空気を取り入れる際に単純な抵抗となるだけではなく、太くなった安全ガードやホコリの塊は空気の渦や乱れを生じさせ、換気扇が吸い込むべき空気の量を大きく減らしてしまいます。



ホコリを除去しよう!!

■風口の確保が鍵「順送システムによる換気」



多くの牛舎では、換気扇の風を順送りにする「順送システム」をとっています。これはらくのうだより7月号(No.208)で紹介したとおり、換気扇の排出側の圧力に対し換気扇の背面(吸込み側)の圧力が高いと、送風効率が上がることを利用しています。

しかし、牛舎の出口で空気が行き止まりになるよ

うでは順送されてきた風は行き場を失い、効率は一気に悪化します。

又、取り入れ口側に十分な開口が無く、十分な空気を取り入れることができなければ、同じく効率は悪化します。